

平成30年度 第2回江別市消防委員会議事録

日 時：平成31年2月20日（水）

15:00～16:14

場 所：消防本部庁舎多目的ホール

出席者【敬称略】

消防委員会：	委員長	村田京華	
	副委員長	有野正勝	
	委員	小原愛香	
	委員	小山功	
	委員	川岸裕子	
	委員	新屋光彦	
	委員	丸山博幸	7名
消防本部：	消防長、次長、署長、警防課長、指令課長、消防課長、予防課長、救急課長、 江別出張所長、野幌出張所長、大麻出張所長		11名
	(事務局) 総務課長、総務係長、総務係員		3名
			計21名

議事内容

3. 報告事項

村田委員長 次第の3、報告事項（1）平成30年江別市災害・救急概況について、担当より説明をお願いいたします。

警防課長 私から平成30年1月から12月までの1年間における、当市の災害・救急概況について、ご報告申し上げます。資料の1ページをご覧ください。

「I 平成30年の災害出動概況」でございますが、表の中の「1. 火災」から、順に主な概要についてご説明いたします。火災件数につきましては36件で、前年比14件の増加となっております。内訳といたしましては、「建物火災」が26件、「車両火災」が1件、「その他火災」が9件となっております。

次に中段、「(4) 死傷者数」につきましては、5人の発生で前年比2人の減少となり死者は発生しておりません。次に「(7) 損害額」につきましては、11,478,000円で、前年比4,456,000円の減額となっております。

次に「2. 救助」についてご説明いたします。救助件数は90件で、前年比18件の減少となっております。内訳といたしましては、「安否確認・施錠開放等」が39件、「交通事故」が16件、「ガス及び酸欠事故」が9件、「建物等による事故」が7件、「機械による事故」が4件、「火災」、「水難事故」、「風水害等自然災害事故」が各1件、「その他の事故」が12件となっております。

次に「3. 警戒」についてご説明いたします。警戒の件数は、234件で前年比21件の増加となっております。内訳といたしましては、交通事故車両やホームタンク等からの「油流出」が71件、自動火災報知設備などの作動による「警報設備等」が59件、ドクターヘリ要請に伴うヘリポート警戒や北海道胆振東部地震に伴う「危険排除」が50件、鍋の空焚きなどの「燃焼事故」が10件、ストーブ等の異常燃焼等の「火気設備等事故」が1件、ゴミ焼きなどのその他が43件となっております。

次に「4. 風水害等自然災害」についてご説明いたします。風水害等自然災害の件数は、59件で前年比55件の増加となっております。内訳といたしましては、9月に発生しました台風21号による「暴風による事故」が59件となっております。

次に「5. 救急支援」についてご説明いたします。救急支援の件数は、357件で前年比47件の増加となっております。内訳につきましては、心肺停止及びその疑いなどの「CPA」が295件、建物などからの傷病者搬出を支援する「搬送困難」が32件、高速道路上等の救急隊の活動障害排除や複数傷病者発生時における活動支援である「危険排除」が18件、「その他」が12件となっております。

次に資料裏面の2ページ上段をご覧ください。「Ⅱ 平成30年の救急出動概況」についてご説明いたします。救急件数は、4,898件で前年比366件の増加となっております。主な事故種別の内訳につきましては、「急病」が3,288件で全体の約67%を占めております。「一般負傷」が689件、「交通事故」が226件、「運動競技」が64件、病院間搬送などの「その他」が478件となっております。救急搬送人員につきましては、4,570人で前年比308人の増加となっております。

最後になりますが、同ページの下段には参考として、過去5か年の年齢別搬送人員の推移をグラフで掲載しておりますのでご参照ください。

次に3ページをご覧ください。初めに1. 台風21号に伴う対応をご覧ください。

台風の北上に伴い、9月4日午後11時頃から徐々に風が強くなり、翌5日午前3時16分の江別太アメダスの記録では最大瞬間風速33.1メートルを記録し、この強風により65件の災害が発生したところがございます。参考値ではございますが、消防本部に設置されている気象観測システムでは午前2時50分に最大瞬間風速40.2メートルを記録しました。

出動状況でございますが、警戒・風水害出動が63件、主な内訳は屋根・壁・車庫・物置などの損傷が48件、倒木危険が8件、救急出動が2件で総出動件数は65件でございます。

消防における配備体制につきましては、9月4日午後6時34分の暴風警報発令時より警戒体制をしき、翌5日午前2時頃から勤務外職員を招集し、警戒・風水害出動に対応しておりました。

次に2. 北海道胆振東部地震に伴う対応をご覧ください。9月6日午前3時7分に発生した地震は、北海道初の震度7を記録し、当市においても震度5強を記

録しました。

(1) 出動状況でございますが、災害出動は20件で、主な内訳は警戒出動が13件、救助出動が5件、救急出動は5件で総出動件数は25件でございます。

次に(2)北海道広域消防応援出動についてでございますが、6日午前10時20分に後方支援隊としての出動要請を受け、3名の職員が後方支援車に資器材等を積載し、他の消防本部派遣隊と共に厚真町に出動しております。現地では、土砂災害現場で活動する隊への準備等の支援、町民への食事等の支援物資の準備など3日間の活動を行っております。

次に(3)消防庁舎等の破損状況につきましては、消防分団庁舎壁の一部破損、分団庁舎敷地内の土壌の一部陥没がございました。消防における配備体制につきましては、地震発生直後より、職員や団員が参集し、体制の強化、市内巡視等を行い出動に対応しておりました。

消防本部は大きな余震を警戒し、9月末日まで警戒体制を維持しておりました。私からの報告は以上でございます。

村田委員長      それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。

小原委員          火災件数では特に住宅火災が多かったようですが、昨年の住宅火災の具体的な傾向と、例年火災が発生する住宅火災での住宅用火災警報の設置状況について質問いたします。

予防課長          平成30年の住宅火災の傾向と住宅用火災警報の設置状況についてですが、平成30年に発生しました16件の住宅火災の傾向は、出火原因の主なものとしては延長コードなどの配線機器類に係るものが4件、たばこ・ストーブ・コンロ、放火及び放火疑いに係るものがそれぞれ2件といった状況になっております。

配線機器類につきましては各家庭の隠れた部分に設置されてしまうことから点検が行き届かないことや破損が生じてしまうもの、古くて容量の小さな延長コードに消費電力の大きな電気機器を使用したことによるものなどが原因と考えられます。また、たばこ・ストーブ・コンロなどにつきましては、機器の取扱いの不備や市民の方の不注意によるものがほとんどでありますことから、今後も家庭内に潜む火災危険として、これらの事例紹介をして火災予防への注意喚起に努めてまいりたいと考えています。

続きまして、火災が発生した住宅における住宅用火災警報器の設置状況でございますが、昨年火災となりました建物において、住宅用火災警報器の設置が必要だったものは12件ございました。そのうち、条例どおり正しく設置されていたものは3件、1部にのみ設置されていたものは1件、未設置または不明なものが8件ございました。

平成30年の江別市の住宅用火災警報器の設置率は84%でしたので、これらと比較すると火災となった住宅における設置率の低さが伺えます。今後は市民の方に住宅防火に更に関心を持っていただき、万への備えとして住宅用火災警報

器が設置されるよう更に取り組んでいこうと考えております。以上です。

村田委員長 火災件数は毎年増減があってもしかるべきと考えますし、その原因なども常に変化しているものと考えます。全国では昨年の暮れあたりから住宅火災で死者が発生した報道が連日のように流れております。今後とも火災予防の普及について徹底した広報活動などをしていただいて、住宅用火災警報器の設置率も84%ということでしたが、100%に近づけるようお願いしたいと思います。  
他に質問等はございませんか。

川岸委員 救急件数が増加しておりますが、市内医療機関の受け入れ状況はどうか。また、市内・市外への搬送状況について質問いたします。また、高齢者の搬送が増えているようですが、具体的な病名などわかれば教えてください。

警防課長 市内の搬送状況でございますが、搬送人員は2,604人で全体の17%、市外の搬送が1,962人で43%となっております。あと高齢者搬送についてですが、年々超高齢化ということで全国的にも問題となっており、昨年度も非常に増えております。主な病名ですが、比較的多いのは骨折でございます。四肢・胸・頭等の骨折が多い他、何かの原因によるめまい、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害の搬送が比較的多くなっております。以上でございます。

村田委員長 段々、高齢者の方も江別市内に増えておりまして、これから暫くは救急件数など増加していくものと判断いたします。ここで消防の方々をお願いがございます。先だって日本水泳のホープの方が白血病になったニュースが流れました。皆様方は昼夜問わず活動され、心身の負担も多々あるかと思っております。今一度、ご自身の健康管理も見直し万全を期して市民のために頑張っていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。  
その他、質問等はございませんか。

小山委員 台風関連ですが、これに起因する出動は65件となっております。台風の時はこれらの出動に際し119番が多方面から通報されると思います。決して順序よく通報してくるものでないと想像しますし、消防本部の対応も物的に限りがあると思います。通報時点で、消防本部ではどのように対応するのか質問いたします。

指令課長 台風21号に伴います指令業務の対応についてご説明いたします。初めに台風21号に伴います119番の入電状況でございますが、当日は84件、特に9月5日1時過ぎから風速が10メートルを超えまして入電が増加し、2時から4時にかけてピークを迎えたところであります。

消防本部の気象装置で風速40メートルという瞬間最大風速が表示されまして、その時間帯の前後に非常に多くなっている状況であります。先程警防課からご説明がございましたが、屋根が飛びそう、倒木で道がふさがれている、電柱から火花が

出ている、物置が飛びそうというような内容がございました。

当日は事前に気象警報の発令が予測されていましてことから、指令員を事前に増員し、指令システムにつきましても大規模災害モード、座席数を増やし対応を準備していたところであります。

また、今回のように広範囲に数多くの事案が同時に発生した場合は、通称トリアージと言われておりますが、通報内容から人命危険の高い事案を最優先とし優先順位をつけまして、部隊を出動させていく形になります。その際、事案の発生状況から部隊を編成したり増強したりするのも指令課の裁量で実施しているところであります。説明については以上でございます。

村田委員長      ありがとうございました。  
                    その他に質問等はございませんか。

新屋委員          地震関連ですが、当時は全道各地で大停電が起きました。消防本部で動力が無くならないということはないのですか。また、停電になると119通報は受けることができるのですか。

指令課長          消防本部庁舎、また各出張所の庁舎につきましては、非常用自家発電機を設置しておりまして、停電と同時に作動するシステムとなっております。全ての電源を供給できるわけではございませんが、災害対応では問題ない電源が供給される形になります。

今回の地震による停電の影響は全くなく、事案の処理を行うことができたものでございます。しかしながら、停電時において家庭用の電源を必要とする家庭についている電話機、FAX電話などについては停電になった場合に通話ができない状況になります。また、携帯電話につきましても、通信施設の処理許容量を超えた場合に通話できなくなる現象が起こることも合わせて申し上げたいと思います。以上でございます。

村田委員長      他に質問等はございませんか。  
                    今回は台風と地震が連日で発生しました。江別市は樹木の倒壊が多くあったようですが、それ以外では人命にかかわる大きな被害はなかったとお聞きしております。今後も第二、第三の大きな自然災害がまたいつ来るかわかりませんが、自分自身の備えも含めて市全体で減災に取り組んでいきたいと思っております。消防の皆様方、どうぞよろしく願いいたします。

続いて、報告事項（2）平成31年度予算（案）の概要について、担当より報告をお願いいたします。

総務課長          4ページ資料2をご覧ください。先般、2月5日に江別市長の記者発表となった中で、市の新年度予算案の概要となります。上段に記載されている江別市の一般会計、平成31年度予算案は前年度より5.2%増の458億2千万円とな

りました。増加の主な理由としては、プレミアム商品券事業の実施や教育・保育施設等給付事業など扶助費の増加によるものでございます。

次に5ページをご覧ください。消防本部の予算は、上段の経常経費、下段の臨時経費で構成されており、一番下の消防本部合計では、2億4,882万5千円で平成30年度と比較すると1億7,497万円の減で、前年比大幅減となっておりますが、これについては平成30年度にはしご付消防自動車を購入したことが要因となったものでございます。

それでは、はじめに上段の経常経費についてご説明いたします。経常経費につきましては、表中上段が本部3課事業、下段が消防署3課事業でございますが、平成31年度の消防本部における予算要求の特色としては、業務効率化を図りながら予算削減を図る目標を掲げ、平成30年度に17本あった事業を14本に削減した結果、経常経費に関しては、昨年とほぼ同額の1億4,807万円となったものであります。

なお、削減した「救急隊員養成事業」は「消防職員研修費」へ、「消防団車両維持管理費」は「消防車両維持管理事業」へ、また「応急手当普及啓発事業」は「救急業務高度化推進事業」に統合いたしますが、従来行っていた業務は上位の事業に効率的に組込んだものであります。

次に、下段の臨時経費についてご説明いたします。臨時経費につきましては、本部3課6事業で記載しておりますが、上から2段目の消防職員被服費は既に平成30年度で完済しており、比較のために記載しているものであります。

初めに総務課所管の消防庁舎・出張所改修事業については、本部庁舎のエアコンの改修で予算要求いたしましたが、査定されなかったものであります。今後は次年度以降、電気系の設備の老朽化などが著しいことから、優先順位を検討し予算要求をしていきたいと考えております。

次に警防課所管の水利施設維持管理費でございますが、8丁目道路拡幅に伴う電柱埋設工事に伴い、消火栓の移設工事のため約1,400万円の増加となったものであります。同じく警防課所管の常備消防用備品整備事業に関しましては、消火薬剤や消防用機械器具更新整備の経費について前年より34万9千円の増額となりました。同じく警防課所管の消防車両整備事業に関しましては、整備計画に基づき水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付積載車の更新を行う予定です。なお、前年度予算の対比につきましては先程説明したとおりとなっております。

次に指令課所管の消防緊急情報システム、いわゆる119番受付や出動車両自動選別などを行うこれらの設備は、平成22年度の導入から既に7年以上を経過し耐用年数を過ぎていることから、主要装置の更新を行うため新規事業として中間整備を行うものであります。予算額に関してはリース方式を採用するため次年度は257万1千円ですが、総額約1億5千万円を5年で償還しようとするものであり、平成32年度からは毎年約4千万円の経費が必要となるものであります。

以上、平成31年度の予算概要を説明いたしました。今回の予算案につきましては、皆様にご審議いただきました「江別市消防10か年アクションプラン」に

基づいた予算措置がなされており、老朽化した車両や設備等の更新整備が計画どおりに進捗していることをご報告いたします。以上で説明を終わります。

村田委員長　それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。

有野副委員長　消防本部の予算についてお聞きします。市の予算というのは我々市民にとって市立病院の問題にしても大変重要なことだと思います。経常経費等を見ると平成30年度と比較して、ほぼ前年並みに予算が組まれたと感じますが、決して十分な予算ではないとは思いますが。車の更新整備など以外でも、今後、施設や設備の老朽化への対応をどうするか、消防本部としての考え方をお聞きしたいと思えます。

総務課長　消防本部では出張所や消防団庁舎を含めると8つの建物があります。江別市総合計画の前期におきましては、これら消防庁舎の長寿命化を図るために建築物の定期調査を実施したところであります。その結果を受けまして、次年度以降は改修のための優先順位を定めて、国の財政措置なども活用しながら計画的に改修を行っていきたいと考えております。

なお、基本的に設備等の改修を対象としますので、屋外などの変電設備、あるいは自家発電設備、照明器具のLED化、自動火災報知設備、非常用設備などの更新を予定しております。説明は以上です。

村田委員長　他に質問等はございませんか。

それでは、(3)平成31年度消防関係年間行事(上半期)について、担当より報告をお願いいたします。

総務課長　それでは、報告事項(3)平成31年度消防関係年間行事予定(上半期)について総務課よりご説明いたします。6ページ資料3をご覧ください。

次年度の4月から9月までの上半期における消防関係行事予定表について記載しております。始めに、4月には春の火災予防運動が4月20日から30日まで、5月には野幌森林公園を火災などから守ることを目的に、毎年、札幌市・北広島市・江別市3市の消防機関が公園内で発生した火災時の連絡体制の確認や各消防部隊の連携した消火活動の構築を図ることを目的に訓練を行っております。

次に7月には、野幌市民まつり会場での消防ブース開設を行います。8月には、平成31年度第1回当委員会の開催を予定しており、次回は役員改選の年となります。また、消防団の日頃の訓練成果を査閲する目的で、消防団長査閲訓練を消防学校で実施する予定です。

最後になりますが、9月には江別市総合防災訓練及び消防関係物故者慰霊祭を予定しております。こちらの行事につきましては、委員長へご案内する行事となっております。以上、簡単ではございますが、平成31年度消防関係年間行事予定(上半期)についての説明を終わります。

村田委員長　それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。  
なければ（４）消防指令業務の共同運用について、担当より報告をお願いいたします。

総務課長　　７ページの資料４をご覧ください。今回ご説明する消防指令業務の共同運用については、当委員会で初めてお話しするものでございます。資料は細かいのですが、最初ですので皆様にきちんと趣旨を説明したうえで、今後のスケジュールなどをお話しできたらと考えておりますので、若干長くなりますがご了承ください。  
江別市が参加予定の、２０２５年度の運用開始を目標とした「石狩振興局管内の自治体での消防指令業務の共同運用」につきまして、これまでの検討内容や今後のスケジュールなどについて、ご説明させていただきます。

初めに「１ 消防指令業務の共同運用と効果について」ですが、近年、災害は大規模化・複雑多様化し、これに適切に対応するため消防力を確保・充実しなければなりません、人口減少の進行で、人的・財政的な資源は限られているといった状況でございます。

この様な状況に対応するため、国は消防の広域化を推進し、広域化が困難な地域は、「消防車両や庁舎の共同整備」「消防指令業務の共同運用」など、事務の一部を複数の市町村で連携・協力するよう強く奨めております。

そして、消防指令業務共同運用は、複数の市町村が共同で１ヵ所の指令センターを整備し運用するもので、期待できる効果としては、施設整備費及び維持管理費の削減による「財政効果」、情報の一元化により迅速な相互応援体制が確立できる「災害対応能力の向上」、指令業務配置職員を現場活動職員へ配置できることによる「人的効果」などがございます。

なお、消防指令業務の共同運用は、平成１１年に静岡県から開始され、平成２０年度から全国に拡大し、平成３０年４月１日現在、全国では４７地域、１９３消防本部で実施されていますが、道内の先行事例はございません。

次に、「２ これまでの検討に関する取り組み状況」ですが、平成２７年度から３か年で、札幌、江別、千歳、恵庭、北広島、石狩北部地区の石狩振興局管内６消防本部で、消防指令業務の共同運用に係る検討委員会を設置し、実施の可否、運用要領の調査・研究を行った結果、実施可能な素案が取りまとめられました。

そして、これをもとに各自治体は平成３０年度中に参加への意思決定をすることとなりましたが、江別市としては、メリットが多数あると判断されたことから、本年度、理事者説明・市関係部局への説明・議会報告を経て、参加することとして決定いたしました。

次に、「３ 消防指令業務共同運用の検討結果」ですが、「(1)共同指令センターの運用開始時期」は２０２５年度、「(2)共同指令センターの設置場所」は札幌市消防局の既存庁舎、「(3)共同指令センターの運営方式」は、札幌市に他の参加自治体が事務を委託する「事務委託方式」を採用することとなりました。資料中右側の図につきましては、石狩振興局管内の状況と、管内からの全ての１１９番通報が共

同指令センターへ入電することとなるイメージでございます。

資料8ページをお開きください。次に、「(4) 指令センターや各本部に設置される機器の整備・保守に係る経費」ですが、各消防本部で署所の数や車両数が異なるため、各自治体にメリットが公平となる割合が算出され、経費を負担することとなります。次に、「(5) 指令センターの運用に係る経費」ですが、指令センターの運用は全て札幌市に委託するもので、その委託料につきましても、メリットが公平となる割合で委託料を負担することとなります。

次に、「4 運用開始までに予定されているスケジュール」についてですが、平成27年から平成29年の3か年で検討を重ね検討結果報告書が作成されましたが、本年度はそれを判断材料として各自治体の実施の判断をいたします。そして、2019年度は事務委託の締結、2020年度から2か年での設計、2022年度には工事契約、2023年度から3か年の工事を経て、2025年度中の共同指令センターの運用開始を目標とするスケジュールです。なお、2021年度からの2か年で、これらの事務の補助員として、当市の職員1名を札幌市へ派遣することを予定しております。

次に、「5 指令業務共同運用への参加によって当市が期待できる効果」です。まず、「(1) 施設整備費・保守費の削減」ですが、検討にて調査した経費の概算によりますと、当市が単独で整備し維持管理することに比べ、共同で整備運用した場合には、運用する12年間での経費は約2億4千万円の削減となるよう試算されており、また、共同で整備する場合には国の有利財源が活用できることから、これよりも更に経費の削減が期待されます。

次に、「(2) 災害対応要員の増強による住民サービスの向上」ですが、共同指令センターの運用は全て札幌市へ委託するため、参加自治体からの人員派遣は発生しません。よって、江別市消防本部の通信指令室に配置されている職員は、災害対応要員に充当できるため、災害対応力が強化され住民サービスが向上します。しかし、駆け込み・加入電話による通報、共同指令センターとの連絡調整、災害出動時の非番招集及び消防団の招集、共同指令センター非常時のバックアップ等を行う専従の連絡員を確保する予定です。

次に、「6 今後の検討課題」についてですが、各消防本部独自の運用、出動車両の運用や非常招集、消防団の運用要領などを精査し、共同指令センターで取り扱う業務範囲について、2025年度まで詳細に検討を進めていく予定です。また、独自で行っている住民サービスは、各本部個別で検討することとなりますが、既存サービスが低下することのないよう、慎重に検討する予定でございます。

資料9ページをお開きください。これは、消防指令業務共同運用のイメージでございます。上段が現在の単独運用で、119番通報受付から現場対応までを、各消防本部が各々で賄っております。下段は指令共同のイメージですが、参加する自治体で共同指令センターを1ヵ所整備し、参加する自治体の行政区域内から発信される119番通報を全てここで受領し、通報発信元を管轄する自治体の消防本部へ出動指令を発するというものでございます。

以上が、これまでの消防指令業務の共同運用の検討内容とその結果、そして、2

025年度の共同指令センター運用開始に向けて予定されているスケジュールでございます。説明につきましては以上でございます。

村田委員長　それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。

有野副委員長　私たち市民が119番通報した際、何か変わる可能性がありますか。またメリット、デメリットなどあればお聞かせください。

総務課長　全ての石狩振興局管内の市民が従来どおり119番通報しても何ら変わらないものであります。消防本部としては市民サービスの低下につながることはあってはならないことですので、十分に他の自治体と協議を進めながら調整を進めていきたいと思っております。

また、メリット、デメリットについてですが、基本的には財源を確保するということが最優先課題であり、江別市が単独で整備する場合と共同で整備する場合とでは億単位の違いが出てきますので、有利ではないかと考えております。また、先般の台風や地震の時は、それぞれの消防本部が単独で災害対応を行っていましたが、そういった時に相互応援などの迅速的な対応が可能ではないかと現在は判断されておりますので、この消防指令業務の共同運用は経費面、住民サービス面でデメリットはないものではないかと考えております。以上です。

有野副委員長　先般と同様の台風や地震などがあつた際に、人口が多い地域に応援が集中してこの辺りに消防車がいなくなってしまうのではないかとということが少し心配ではありました。そういったことはないと思っておりますが、どうぞよろしく願いいたします。

村田委員長　他にございませんか。

小山委員　高齢者の自宅に緊急通報システムというものがありますが、実際そこから発信された場合は共同運用になるのか、各消防本部独自で検討することになるのかお聞きします。

総務課長　所管は市の健康福祉部ですが、これは江別市独自のシステムとなります。今回、指令業務共同運用では導入することはできないことになっております。健康福祉部では、今後安全センター(株)などの外部事業者への委託について調査を進めているところであります。

村田委員長　他に質問等はございませんか。

丸山委員　災害の関係ではいろいろな対応があると思いますが、江別で起こった時に江別独自で今と同様の活動がされるのか、指令センターに確認を取りながらの対応と

なるのか、その分け方についてどのように方向づけされているのでしょうか。

総務課長 基本的には自分の管轄が最優先ですので、札幌市の指令センターから江別市消防本部へ出動指令が出されます。他の自治体で被災があった時は応援することもあります。物的に限りがございます。そのため、これから管内の消防本部で応援の協力体制をどのように調整していくか、慎重に検討していきたいと考えております。

村田委員長 他にございませんか。  
それでは、私から質問させていただきます。  
機器の整備、保守に係る費用について、各自治体にメリットが公平になるように割合を決めるという説明がございましたが、札幌市と江別市を比べても人口等に大きな差があると思います。それぞれの自治体の規模、設備等が違う中、メリットの公平というものについて具体的なものがありましたら教えていただきたいと思っております。

総務課長 試算の方法ですが、各自治体の面積、消防本部の職員数、車の台数、そういったところを勘案して不公平とにならない方法で算定されることとなります。詳細については今後調整していくこととなります。

村田委員長 ありがとうございます。  
電子機器類というのは、非常に高価でその耐用年数も短いものと認識しますし、その準備にも多くの時間が必要ということも理解いたしました。119番関連というのは市民生活に密着しておりますので、是非とも今と変わらない状況で運用をお願いしたいと思います。  
他にございませんか。  
なければ(5)住宅用火災警報器の設置促進等について、担当より報告をお願いいたします。

予防課長 10ページ資料5をご覧ください。住宅用火災警報器の設置促進等につきまして、資料の上から1段目、2段目につきましては、報告事項(1)の災害概況で触れた部分と重複いたしますので割愛いたします。  
3番目の交換促進強化年の取組みからお話しさせていただきます。江別市第6次総合計画に盛り込まれております「火災予防対策の推進」の実現に向け、消防本部の個別計画であります「江別市消防10か年アクションプラン」の中に、「防火意識の普及推進計画」において、住宅用火災警報器の設置義務化から10年経過を迎える平成30年度及び31年度を「更新促進強化年」と指定し、住宅用火災警報器の設置促進とともに、市民に点検や本体交換の必要性について理解を深め、火災による死傷者、特に高齢者の死傷者防止への取り組みを集中的に展開しているものであります。

この事業の目的といたしましては、住宅用火災警報器未設置住宅への設置促進、設置から10年が経過し、電池及び機器の寿命を迎える住宅用火災警報器が増えてくることから、本体交換を含めた適正な維持管理の推進を目的としております。

また、これらから期待される効果といたしましては、住宅火災における逃げ遅れによる死傷者の発生を防ぐこと、早期発見による住宅火災の減少及び火災損害の軽減を期待しているものであります。

平成30年度の具体的な取り組みといたしましては、新規の取り組みとして市の出前講座メニューに「火災予防について」、「住宅用火災警報器について」を登録し広報活動への取り組みを実施いたしました。また、この出前講座実施のために、第1回の委員会でもお披露目させていただきましたが、住宅用火災警報器のデモボックスや広報物品の充実、また、火災原因の紹介や写真を用いた講義資料の作成など、充実に取り組んでいました。

また、同じく平成30年度に新しく取り組んだことといたしまして、秋の火災運動期間中に住宅防火アドバイザー養成研修会というものを市内の3地区で開催いたしました。合計で150名の市民の皆様の参加をいただいたものであります。

また、継続といたしましては、高齢者世帯への広報ですとか出前講座の推進、自治会や消防団との連携、こういったものを継続して取り組んで参りました。

次年度、平成31年度へ向けてといたしましては、「交換促進強化年」の2年目を迎えますが、単純に事業を継続することなく平成30年度の取り組みを振り返り、更に効率的な広報活動の展開を目指します。住宅用火災警報器は万が一火災が発生した場合の「被害軽減対策」であることから、家庭の中から火災を発生させない「出火防止対策」と並行して取り組んで参りたいと思っております。

以上で説明を終わらせていただきます。

村田委員長      それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。

要望事項となりますが、消防本部として火災予防への新たな取り組みや住宅用火災警報器の更新、維持管理の強化に努めるという方針を理解いたしました。中でも高齢者への対応など、今後も一貫し継続していかなければならないと思いますので、最初でもお願いをしましたが、今後とも火災予防の普及について、徹底した広報活動をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

他に何かございませんか。

なければ(6)平成30年度消防委員会活動報告について、担当より報告をお願いいたします。

総務課長      12ページ資料6をご覧ください。今年度、消防本部の主な行事でございましたこれらの事業へ委員長にご参加いただきましたので、ご紹介いたします。

写真上段は、9月27日に開催された「消防関係物故者慰霊祭」の状況でございます。消防関係物故者慰霊祭では、江別市長を始め、ご来賓の皆様、消防関係者OBで構成する「江別まとい会」会員、消防職団員31名が、消防関係物故者287柱の御霊に対して黙祷と献花を捧げております。

次に中段から下は、本年1月8日に開催された「平成31年江別市消防出初め式」の状況でございます。出初め式では、市役所前での幼年消防クラブ員による防火の誓いに始まり、消防職団員の分列行進や車両の観閲後、会場を市民会館に移しまして式典として、江別市長の挨拶、来賓あいさつ、団員の表彰伝達などを行いました。

最後にはアトラクションとして江別あかしゃ幼稚園によるマーチングバンドの演奏と大麻高校チアリーディング部の演舞があり、大ホールは総勢約500人が参加し盛会に終わっております。

なお、出初め式の始めには旭川ガス株式会社様から寄贈いただきました子供用防火服を市民より公募した小学生18名が着用し、未来の消防士として、職団員の分列行進の先頭を歩いております。報告につきましては、以上でございます。

村田委員長        それでは、只今の報告につきまして質問等はございませんか。  
                         なければ次第の4. その他に入ります。  
                         全体を通して何かございませんか。

有野副委員長     先日、大雪の日に消防本部の前を通った時、道路が1車線ずつしか車が通れない状況になったことを覚えています。もし救急出動があった場合に、この渋滞でスムーズに出ることができるのかなと思いましたが、よく考えるとここは道道で、市にお願いして道を広げてもらうのは無理なのかなと思いましたが、我々普段道路を走っていて、救急車両が来た時に左に寄りますが、寄れない状況があるのではないかなと思っていました。どうしようもないことかもしれませんが、関係機関に救急車両がスムーズに通れるようお願いをしていただければと思っております。よろしく願いいたします。

丸山委員            貴重なご意見ありがとうございます。私、江別環境整備事業協同組合の理事長をしておりまして、江別市内の市道の除雪を担当しております。バス路線や通学路など行政の優先順位がありまして、幅員の広いところはどうしても後になってしまう可能性はあるのですが、救急車が来た時に移動して少しでもスムーズに進行できるよう市民の皆様で協力していただきたいと思っております。

                         実際、江別市としても限られた時間と予算の中でやっています。今年は豊幌地区で6.8メートル、市平均で6メートルぐらい降雪量があり、同時に道路を確保するというのは難しい問題ですが、環境組合としては最善を尽くして行政の計画に基づいて、できるだけ市民の皆様の足の確保や救急車が安心して走行できるような環境づくりを進めておりますので、引き続きご意見、ご指導をお願いいたします。

有野副委員長     全部を除雪するのは無理だと思いますが、夕方など渋滞になる時間帯もありますので、救急車がスムーズに出るために間口だけでも除雪できればいいのではないかなと思いました。

村田委員長　それでは、他に何かございませんか。

丸山委員　消防団の関係ですが、昨年から194名体制で活動しております。3月31日で退団される方もおり、分団長も変わる予定ではありますが、引き続き地域にご迷惑がかからないように、安心できる環境づくりをして消防団活動をしていきたいと思っております。

庁舎の関係も先程報告がありましたが、地震で破損したところも行政の方で手立てをしていただいたところでもあります。また、平成32年度北海道消防操法訓練大会の出場ということで江別市消防団が石狩振興局管内の中で担当をしており、本年度から本格的な準備をし、出場に向けて全国大会に出るような消防団であればいいと思っておりますが、最善を尽くしてこれからも頑張っていこうと思っております。これから地元の協力も得て消防団の募集も行い、団員の確保もできるように最善を尽くしていこうと考えておりますので、またご指導の程よろしくお願ひいたします。

村田委員長　ありがとうございました。  
他に何かございませんか。

西原消防長　新屋委員、ガスの関係で台風21号や地震による被害状況がわかりましたら教えていただきたいと思います。

新屋委員　江別を含めて全道で都市ガスの被害は基本的になしです。ガス漏れによる出動もありませんし、基本的には止まったところもなしです。ただ、停電に伴って、うちの事務所は空調の発電機がありましたので対応できましたが、旭川の工場では発電が止まる72時間ぎりぎりまで非常用発電が作動しており、見直しが必要かなと思われました。ただ、協会を挙げて古い管等の入れ替えをしましたので、基本的には被害がなかったという状況です。

村田委員長　他にございませんか。  
事務局より何かございませんか。  
なければ、これで議事を終了いたします。  
本日は活発な意見、ありがとうございました。これで議長を解任させていただきます。

総務課長　以上をもちまして、平成30年度第2回江別市消防委員会を閉会いたします。